

J P I
関 東 支 部
催 し の 内
ご 案

第3回環境を考える 包装革命シンポジウム

— 深化させよう、環境経営と包装におけるサステナビリティ —

- 開催日：平成22年3月12日(金)
- 会場：アルカディア市ヶ谷(5F) 大雪の間
- 主催：社団法人 日本包装技術協会 関東支部

開催にあたって

昨年12月にコペンハーゲンにて気候変動枠組み条約第15回締結国会議(COP15)が開催され、国際交渉とその行方[国際枠組みと国際交渉、コペンハーゲン合意、EUの戦略、途上国の取組み]が明らかになるなど、世界的に温暖化対策への動きが活発になり注目されております。

日本政府は、2020年度までに温室効果ガスを25%削減する新たな目標を提示し、その目標を達成するための具体的対策は、包装業界においても大きな影響を及ぼすことになると考えられます。

温室効果ガスをCO₂排出量として表し、商品に表示するカーボンフットプリントについては、制度試行事業として、PCR原案策定計画の登録申請の受付、検証が行われるなど、制度化に向けての動きが進んでおります

今回のシンポジウムでは、低炭素社会に向けての世界と日本の最新状況やカーボンフットプリント制度の現況や今後の見通しについてご説明頂きますとともに、サステナビリティ社会への新しい包装のあり方を、消費者から企業への提言や企業の環境経営への取組み・外資系企業の海外と日本での環境対応事例等を通じて紹介してまいります。さらにパネルディスカッションで考察します。どうぞこの機会に、社内関係各部門をお誘い合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

講演者ご紹介

- 松尾 直樹 氏
(有)クライメート・エキスパート
(株)PEARカーボンオフセット・イニシアティブ 代表取締役
1988.3 大阪大学大学院理学研究科物理学専攻博士後期課程修了 理学博士
1991.5~1998.3 (財)日本エネルギー経済研究所 主任研究員
1998.4~2002.8 (財)地球環境戦略研究機関 上席研究員
2002.9~ (有)クライメート・エキスパート 設立
2007.8~ (株)PEARカーボンオフセット・イニシアティブ設立
【その他】慶應義塾大学 特別研究教授(大学院政策・メディア研究科)
国際協力銀行京都メカニズム・アドバイザー、アジア開発銀行シニアCDMテクニカルアドバイザー等
- 小林 珠江 氏
(株)コミュニケーション科学研究所 客員研究員 環境問題担当
1983年、西友入社。人事部能力開発担当・教育トレーナーなど人事部門を経て、1991年福祉担当マネージャー。1997年環境対策室室長として、小売業では世界初となるISO14001の認証取得を達成。2001年、執行役員。米ウォルマート・ストアーズとの提携後、執行役人財部SVP、CSR推進室SVPを歴任。2008年3月、退職。
現在はコミュニケーション科学研究所 客員研究員 環境問題担当。
- 河井 一慶 氏
日本コカ・コーラ(株)
サステナビリティ推進室 室長
米国の大学を卒業後、広告代理店を経て、1996年日本コカ・コーラ入社。
イベントマーケティング、セールスプロモーション、フレーバー炭酸グループなどを歴任後、コーヒーブランドグループでは統括部長として「ジョージア」を牽引。
幅広いフィールドでの経験が高く評価され、2009年より現職。
- 金井 路也 氏
日本テトラパック(株) 環境本部 マネージャー
東京理科大学工学部卒業後、ソニーグループにて調達、新規事業開発、環境関連の事業開発に従事、新会社立上げなど様々な業務を務める。2004年日本テトラパック(株)に入社、環境本部にて、全国牛乳容器環境協議会専門委員、紙製容器包装リサイクル推進協議会技術委員などを兼務。2009年にスウェーデン本部にてLCA、カーボンフットプリントなどに従事。現在に至る。
- 石川 雅紀 氏
神戸大学大学院 経済学研究科 教授
1977 東京大学工学部化学工学科卒業。
1984 東京大学工学系大学院化学工学専攻博士課程単位修得満期退学。
1985 東京水産大学食品工学科 助手。
2003 神戸大学大学院経済学研究科 教授 現在に至る。
有資格・著書
Quantified Eco-efficiency, Springer eds. Gjalt Huppes and Masanobu Ishikawa 2007
- 後藤 敏彦 氏
NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
(その他NPO代表 委員多数)
- 有田 俊雄 氏
(株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長
- 長谷川 浩 氏
大日本印刷(株) 包装事業部 環境室 室長

企画委員

開催要領

- 日時：平成22年3月12日(金) 9:40~16:50
- 会場：アルカディア市ヶ谷(5F) 大雪の間
東京都千代田区九段北4-2-25
TEL: 03-3261-9921
- 定員：100名
- 参加費：会員 21,000円(消費税5%、テキスト代含む)
一般 24,150円(消費税5%、テキスト代含む)



- 東京メトロ有楽町線・南北線 市ヶ谷駅A-1出口 徒歩2分
- 都営新宿線 市ヶ谷駅A1-1 A4出口 徒歩2分
- JR中央線 市ヶ谷駅 徒歩2分

申し込み方法

- 本紙申込書に必要項目を全て記入の上、FAXにてお申込みください
協会HPからのお申込みも出来ます。
協会HP: <http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。
- 当日、都合が悪くなった場合、代理の方の出席は差し支えありません。(当日、名刺を頂戴します)

お問合せ並びにお申込み先

(社)日本包装技術協会 関東支部
環境を考える包装革命シンポジウム係 担当：竹内 行
〒104-0045
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL: 03(3543)1189 / FAX: 03(3543)8970
e-mail: takeuchi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「第3回環境を考える包装革命シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

第3回環境を考える包装革命シンポジウム参加申込書

社団法人 日本包装技術協会 関東支部 竹内 行 FAX. 03-3543-8970 No. _____

会社名						
所在地	(〒)					
電話				FAX		
参加者	氏名	所属役職		e-mail		
	氏名	所属役職		e-mail		
	氏名	所属役職		e-mail		

プログラム

時間	テーマ	講師
9:40 10:20	<p>『来るべき低炭素社会をどうとらえるべきか？』 —科学・国際枠組み・国内規制から消費者への新しい付加価値提案まで—</p> <p>来るべき低炭素社会におけるビジネスの視点として、それを新たなビジネス環境の変化ととらえ、それにどう包括的に認識し、どう対処していけばいいだろうか？という点に関して、考えるヒントを提供する。</p> <p>概要に関しては以下のように考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動の危機認識 [科学の教えるところ、近い将来おきうること] ・国際交渉とその行方 [国際枠組みと国際交渉、コペンハーゲン合意、EUの戦略、途上国の取組み] ・排出権を活用した規制制度の展開 [国内規制制度と日本の方向性、国際排出権市場、CDM] ・ビジネス環境の変化 [規制対応、社会の要請、CSR、新たな付加価値、新たな提案、低炭素社会のいくつかのイメージ] 	<p>(有)クライメート・エキスパーツ (株)PEARカーボンオフセット・イニシアティブ 代表取締役 松尾 直樹 氏</p>
10:20 11:00	<p>『カーボンフットプリントその後の経過・今後の見通し』</p> <p>商品・サービスにCO₂排出量を表示するカーボンフットプリント制度について、我が国では2009年3月に策定・公開された「カーボンフットプリント制度の在り方(指針)」や「商品種別算定基準(PCR)策定基準」等に基づき、2009年度より試行事業が実施されている。</p> <p>本講演では、今年度実施された試行事業の内容を中心に、同制度のその後の経過や今後の見通しについて紹介する。</p>	<p>みずほ情報総研(株) 環境・資源エネルギー部次長 環境経営チーム 主管 加地 靖 氏</p>
11:00 11:30	上記2講演への質疑応答	進行：企画委員
11:30 12:30	休憩	
12:30 13:10	<p>包装ごみの発生抑制への挑戦—減装ショッピング</p> <p>容器包装リサイクル法の施行以来リサイクルは着実に進展し、埋め立て量は半減したが、ごみ全体の発生量は微減しているに過ぎない。容器包装リサイクル法の見直し時には、ごみ全体の容積で6割を占める容器包装ごみの発生抑制が大きな課題として注目を集める事が予想される。</p> <p>生活者に、商品購買時に容器包装ごみの情報を伝える事によって、より簡易な包装の商品を選択し、容器包装ごみの発生抑制を促すというアイデアを元に、NPO法人ごみじゃぱんは2007年からメーカー、流通、行政、大学、地域住民との連携の元に「減装ショッピング」を展開している。この大規模な社会実験の結果、適切な情報提供を行えば、生活者は減装商品(ごみじゃぱんによって簡易な包装の商品として推奨された商品)を選択する事が実証された。講演では、この実験の結果と今後の展開について説明する。</p>	<p>神戸大学大学院 経済学研究科 教授 石川 雅紀 氏</p>

時間	テーマ	講師
13:10 13:50	<p>『環境経営の本音と建て前』</p> <p>日本の環境問題は公害問題からスタートしているために、その負荷は製造業に起因することが多く、結果として製造業の環境対策が進んだ。環境負荷が少ないとされた非製造業の環境問題への意識や危機感は低く、その対応は遅れている。リデュース・リユース・リサイクルの3Rでいうとリサイクルへの取組みが消費者や自治体との協働で進められてきたが、より重要だと思われるリデュース・リユースには及んでいない。根底にある「環境はコスト要因」という意識を払拭する必要がある。後ろ向きの方策から前向きの方策の一つとして捉える事が必要である。</p> <p>不況の時代にあって、環境経営が事業に利益をもたらすかどうか事例を挙げて紹介したい。これからの環境政策の参考となれば幸いである。</p>	<p>(株)コミュニケーション科学研究所 客員研究員 環境問題担当 小林 珠江 氏</p>
14:00 14:40	<p>『サステナビリティのリーダー企業を目指して—海外と日本 コカ・コーラ社の取組み—』</p> <p>世界の200以上の国と地域で毎日16億杯以上楽しまれているコカ・コーラ社製品は、世界各地で現地の資源を活用し、地元の人々によって製造され、お客様の元に届けられている。</p> <p>本講演では、グローバルでありながら、地域に根ざした企業市民として社会と積極的な関わりをもつコカ・コーラ社が、2020年を目標に全世界で取り組んでいる持続可能な活動=サステナビリティの中から、業界をリードしている例の一つである、サステナブル・パッケージのビジネスとその戦略をご紹介します。</p>	<p>日本コカ・コーラ(株) サステナビリティ推進室 室長 河井 一慶 氏</p>
14:40 15:20	<p>『テトラパックと環境』</p> <p>テトラパックは、食品加工処理と紙容器充填包装システムの世界的リーディング・カンパニーとして、世界中の多数の人々のニーズを日々満たすための安全、革新的で、かつ環境に配慮した製品を提供しており、世界150カ国以上で事業展開している。</p> <p>テトラパックは、再生可能な資源を効率良く利用し、環境負荷の低いビジネスモデルを構築し、持続可能な社会の構築に世界的に取り組んでいる。</p> <p>本講演では、環境に関する世界の潮流、グローバルでの取組み、そして日本での取組みを中心に紹介する。</p>	<p>日本テトラパック(株) 環境本部 マネージャー 金井 路也 氏</p>
15:30 16:50	<p>『パネルディスカッション』 —包装メーカー / ブランドオーナー / 小売りのサステナビリティ活動と消費者意識 (本音と建前) との間で、今、必要とされているものは何か?—</p> <p>司会 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長</p> <p>パネリスト 神戸大学大学院 経済学研究科 教授 (株)コミュニケーション科学研究所 客員研究員 環境問題担当 日本コカ・コーラ(株) サステナビリティ推進室 室長 日本テトラパック(株) 環境本部 マネージャー NPO法人サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 大日本印刷(株) 包装事業部 環境室 室長</p>	<p>有田 俊雄 氏 石川 雅紀 氏 小林 珠江 氏 河井 一慶 氏 金井 路也 氏 後藤 敏彦 氏 長谷川 浩 氏</p>